



明化の教育

2月号 (第508号)
令和5年2月1日
文京区立明化小学校
校長 熊倉 勝

情けは人のためならず

副校長 原 洋子



3年生が一輪挿し体験をととして、美意識について学びました。

先日は、書き初め展や土曜授業公開、道徳授業地区公開講座などでご来校いただき、誠にありがとうございました。特に道徳授業地区公開講座では、新型コロナウイルス感染症拡大予防のもと、当日参加も含め、多くの保護者の皆様にご参加くださいました。講師に日本道徳科教育学会理事であり、民生児童委員、本校講師である庭野優子先生をお迎えし、「ことばのちから～自分から整えよう～」という演題でご講演いただきました。

ご講演の中で「情けは人のためならず」ということばがありました。「情けは人のためならず」は、本来どのような意味なのでしょう。平成22年度の「国語に関する世論調査」で、「情けは人のためならず」の意味を尋ねた結果が掲載されていました。結果は次のとおりです。

(ア) 人に情けを掛けておくと、巡り巡って結局は自分のためになる……………	45.8%
(イ) 人に情けを掛けて助けてやることは、結局はその人のためにならない……………	45.7%
(ア) と (イ) の両方……………	4.0%
(ア)、(イ) とは全く別の意味……………	1.9%
分からない……………	2.6%

「情けは人のためならず」とは、人に対して情けをかけておけば、巡り巡って自分に良い報いが返ってくるという意味の言葉です。この言葉を本来とは違う意味で理解してしまうのは、「ためならず」の解釈を誤ってしまうからだと考えられます。(文化庁ホームページより)

「情けは人のためならず」このことばを思い出す出来事が12月にありました。授業中に私から指導を受けている子がいました。声かけが3回目だったので、個別に話をしていました。その最中に、一人の子供が私の話を止めに入りました。「この子には、よい所があるんだよ」と。気になった言動だけを見て指導していた自分はハッとしました。他にもその子に優しく声をかける子供がいました。とても心を揺さぶられ、考えさせられました。「なぜ、あの子は庇ったのだろう」「大人に対して発言するのは勇気があるのに」「自分も授業が受けたいはず」「きっと前に優しくしていたのでは」次の日、授業の前に私は子供たちに話しました。「この学級には優しい人や勇気がある人がたくさんいます。今後も人に思いやりの気持ちを持ち、勇気をもって言ったり行動したりすれば、自分が困った時に必ず助けてくれる人がいるよ」と。話すうち、私から指導を受けた子や勇気をもって言ってくれた子、励ましてくれた子も、みんな笑顔になっていました。人は優しくされることで、他人に対し優しくすることを覚えていきます。学校は道徳教育を実施していますが、学校だけで道徳心を身に付けるわけではありません。学校や家庭、地域で様々な人と出会い、いろいろな体験を重ねることで、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること」が育っていきます。担い手である学校は、自分たちの指導を謙虚に振り返ることが必要だと感じた出来事でした。今後も明化小学校の教育目標の一つである「人のため すすんでさせる ことばと力」の子供たちを育てていきたいと思えます。

今週の4日(土)は今年度最後の土曜授業公開です。子供たちの一年間の成長をぜひご覧いただきたく、ご来校をお待ちしております。どうぞよろしく願いいたします。